

安全に関する情報リスト

施設の基本情報								何を守るのか（津波シナリオ、影響評価、対策等）									
No.	施設	A 施設の使用目的	B 主なインベントリ等				C 建家の耐震/耐基準津波評価結果（どこまで何が耐えられるのか）				1. 設計津波が来たら何が起きるか ✓ 建家内浸水の可能性 ✓ 浸水範囲	2. 設計津波により当該施設の安全機能が損われた場合の環境への影響評価(4. リスクに応じた対策も考慮した評価)	3. 期待する安全機能及び設備	4. リスクに応じた対策		5. 潜在リスク、対策の効果、緊急性等を踏まえた対策の優先度	
			性状・貯蔵/保管状況等		インベントリ		建家の耐震分類	構造	耐震性	耐津波性				環境への影響が大きき場合	環境への影響が大きい場合		
I.管理区域を有する施設																	
1	分離精製工場 (MP)	使用済燃料の貯蔵、高放射性の廃液の貯蔵等	使用済燃料	低濃縮ウラン燃料	燃料集合体 (貯蔵プール) BF	112体	約17.2 tU	FP (Cs-137等) Pu U									
				MOX燃料		153体	約23.5 tMOX	FP (Cs-137等) Pu U									
									A類	地下1階、一部地下3階、地上6階	RC造 (一部屋根部はS造)						
				ヨウ素フィルタ (AgX)	保管容器に保管 4F (T.P.+16.44m)	29基		FP (I-129)									

安全に関する情報リスト

No.	施設	A 施設の使用目的	施設の基本情報					何を守るのか（津波シナリオ、影響評価、対策等）							
			B 主なインベントリ等 ✓主な設備 ✓内包する放射性物質のインベントリ、性状等		C 建家の耐震/耐基準津波評価結果（どこまで何が耐えられるのか）			1. 設計津波が来たら何が起きるか ✓建家内浸水の可能性 ✓浸水範囲	2. 設計津波により当該施設の安全機能が損われた場合の環境への影響評価(4. リスクに応じた対策も考慮した評価)	3. 期待する安全機能及び設備	4. リスクに応じた対策		5. 潜在リスク、対策の効果、緊急性等を踏まえた対策の優先度		
性状・貯蔵/保管状況等	インベントリ			建家の耐震分類	構造	耐震性	耐津波性				環境への影響が大きい場合	環境への影響が大きい場合			
2	分析所 (CB)	各工程の試料の分析、放射線管理						B類	地下1階、地上3階 RC造						
			分析廃液	溶液 (貯槽) BF1	11m ³	4.2×10 ¹² Bq	FP (Cs-137等)								
3	廃棄物処理場 (AAF)	低放射線の液体廃棄物の処理、低放射線の固体廃棄物の処理及び低放射線の液体廃棄物の放出	低放射性濃縮廃液	廃液 (貯槽) BF	約572 m ³	~10 ¹⁴ Bq	C-14 FP (I-129, Cs-137等)	B類	地下1階、一部地下中2階、地上3階 RC造						
			低放射性廃液	廃液 (貯槽) BF	約1,166 m ³	~10 ¹¹ Bq	C-14 FP (I-129, Cs-137等)								
			廃溶媒	廃液 (貯槽) BF	約19 m ³	~10 ¹⁰ Bq	FP (Cs-137等)								
			低放射性固体廃棄物	カートンボックス、袋 1F、2F	約20 t	~10 ¹⁰ Bq	FP (Cs-137等)								
			ヨウ素フィルタ (AgX)	保管容器に保管 1F	30基		FP (I-129)								
			ヨウ素フィルタ (活性炭)	保管容器に保管 1F	3基		FP (I-129)								
4	クリプトン回収技術開発施設 (Kr)	クリプトンガスの貯蔵	クリプトンガス	気体 (シリンダ) BF1	4本	9.0×10 ¹⁴ Bq	Kr	B類	地下1階、地上2階 (一部地上3階) RC造						
5	高放射性固体廃棄物貯蔵庫 (HASWS)	高放射性の固体廃棄物の貯蔵	雑固体廃棄物、ハルエンドピース等	ハル缶等 (セル)	約2,884本	~10 ¹⁵ Bq	FP (Cs-137等)	A類	RC造 (上家はS造)						
			分析廃ジャグ等	容器 (セル)	約1,391本		FP (Cs-137等)								

安全に関する情報リスト

No.	施設	A 施設の使用目的	施設の基本情報					何を守るのか（津波シナリオ、影響評価、対策等）											
			B 主なインベントリ等 ✓主な設備 ✓内包する放射性物質のインベントリ、性状等		C 建家の耐震/耐基準津波評価結果（どこまで何が耐えられるのか）			1. 設計津波が来たら何が起きるか ✓建家内浸水の可能性 ✓浸水範囲	2. 設計津波により当該施設の安全機能が損われた場合の環境への影響評価(4. リスクに応じた対策も考慮した評価)	3. 期待する安全機能及び設備	4. リスクに応じた対策		5. 潜在リスク、対策の効果、緊急性等を踏まえた対策の優先度						
			性状・貯蔵/保管状況等	インベントリ		建家の耐震分類	構造				耐震性	耐津波性		環境への影響が大きい場合	環境への影響が大きい場合				
6	ガラス固化技術開発施設 (TVF)ガラス固化技術開発棟	高放射性廃液のガラス固化、ガラス固化体の保管	ガラス固化体	ガラス固化体 (保管ピット6段積) BF	316本	T-α : 約6.0 × 10 ¹³ Bq T-β γ : 約5.7 × 10 ¹⁵ Bq	FP (Cs-137等)	A類	地下2階、 地上3階										
			高放射性廃液	廃液（貯槽） BF	約3 m ³	約8.8×10 ¹⁴ Bq	FP (Cs-137等)												
			ヨウ素フィルタ (AgX)	保管容器に保管 BF2	6基		FP (I-129)												
7	プルトニウム転換技術開発施設 (PCDF)	MOX粉末の貯蔵						A類	地下1階、 地上4階 (一部塔屋)										
8	高放射性廃液貯蔵場 (HAW)	高放射性の液体廃棄物の貯蔵	高放射性廃液	廃液（貯槽） BF1	約369.9m ³	β γ : 3.8×10 ¹⁸ Bq	FP (Cs-137等)	A類	地下1階、 地上4階 (一部地上5階)										
9	第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 (2HASWS)	高放射性の固体廃棄物の貯蔵	雑固体廃棄物、 ハルエンドピース等	ドラム容器 (貯蔵ラック10段積) BF	約2,492本	~10 ¹⁵ Bq	FP (Cs-137等)	A類	地下2階、 地上3階										
10	アスファルト固化処理施設 (ASP)	低放射性の液体廃棄物の貯蔵	低放射性濃縮廃液	廃液（貯槽） BF2	約92 m3	~10 ¹³ Bq	FP (Cs-137等)	B類	地下2階、 地上4階										
11	アスファルト固化体貯蔵施設 (AS1)	アスファルト固化体等の貯蔵	アスファルト固化体	ドラム缶 (4本/フレーム 収納6段積) BF1~1F	13,754本	~10 ¹⁴ Bq	C-14 FP (I-129、 Cs-137等)	B類	地下1階 (一部地下2階)、 地上1階 (一部地上3階)										
			プラスチック固化体		828本		FP (Cs-137等)												

安全に関する情報リスト

施設の基本情報										何を守るのか（津波シナリオ、影響評価、対策等）								
No.	施設	A 施設の使用目的	B 主なインベントリ等 ✓主な設備 ✓内包する放射性物質のインベントリ、性状等				C 建家の耐震/耐基準津波評価結果（どこまで何が耐えられるのか）				1. 設計津波が来たら何が起きるか ✓建家内浸水の可能性 ✓浸水範囲	2. 設計津波により当該施設の安全機能が損われた場合の環境への影響評価(4. リスクに応じた対策も考慮した評価)	3. 期待する安全機能及び設備	4. リスクに応じた対策		5. 潜在リスク、対策の効果、緊急性等を踏まえた対策の優先度		
			性状・貯蔵/保管状況等		インベントリ		建家の耐震分類	構造	耐震性	耐津波性				環境への影響が大きい場合	環境への影響が大きい場合			
12	スラッジ貯蔵場 (LW)	スラッジなどの貯蔵	廃溶媒	廃液（貯槽）BF	約34 m ³	～10 ¹⁰ Bq	FP (Cs-137等)	B類	RC造									
			スラッジ	廃液（貯槽）BF	約285 m ³	～10 ⁹ Bq	FP (Cs-137等)											
13	第三低放射性廃液蒸発処理施設 (Z)	低放射性の液体廃棄物の処理	低放射性濃縮廃液	廃液（ライニング槽）BF	約849 m ³	～10 ¹¹ Bq	FP (Cs-137等)	B類	地下2階、地上4階									
			低放射性廃液	廃液（貯槽）BF	約385 m ³	～10 ⁸ Bq	FP (Cs-137等)											
14	第二スラッジ貯蔵場 (LW2)	スラッジなどの貯蔵	低放射性濃縮廃液	廃液（ライニング槽）BF	約566 m ³	～10 ¹³ Bq	FP (137Cs等)	B類	地下2階、地上2階									
			スラッジ	廃液（ライニング槽）BF	約873 m ³	～10 ⁹ Bq	FP (137Cs等)											
15	第二低放射性廃液蒸発処理施設 (E)	低放射性の液体廃棄物の処理	低放射性廃液（運転時）	廃液（貯槽）BF	約6 m ³	～10 ⁵ Bq	FP (Cs-137等)	B類	地下1階、地上3階									
16	廃溶媒貯蔵場 (WS)	廃溶媒の貯蔵	廃溶媒	廃液（貯槽）BF	約55 m ³	～10 ¹⁰ Bq	FP (Cs-137等)	B類	地下1階、地上2階									
17	放出廃液油分除去施設 (C)	低放射性の液体廃棄物の処理及び放出	廃活性炭	廃液（貯槽）BF	約1,500 m ³	～10 ¹⁰ Bq	H-3	C類	地下1階、地上3階									
			スラッジ	廃液（貯槽）BF	約3 m ³	～10 ⁶ Bq	FP (Cs-137等)											
			廃活性炭	廃液（貯槽）BF	約88 m ³	～10 ¹⁰ Bq	FP (Cs-137等)											
18	第二アスファルト固化体貯蔵施設 (AS2)	アスファルト固化体等の貯蔵	アスファルト固化体	ドラム缶（4本/パレット収納3段積）BF1～2F	16,213本	～10 ¹⁴ Bq	C-14 FP (I-129、Cs-137等)	B類	地下1階（一部地下2階）、地上3階（一部地上4階）									
			プラスチック固化体		984本		FP (Cs-137等)											
			雑固体廃棄物		19本		FP (Cs-137等)											

安全に関する情報リスト

施設の基本情報										何を守るのか（津波シナリオ、影響評価、対策等）								
No.	施設	A 施設の使用目的	B 主なインベントリ等					C 建家の耐震/耐基準津波評価結果（どこまで何が耐えられるのか）				1. 設計津波が来たら何が起きるか ✓ 建家内浸水の可能性 ✓ 浸水範囲	2. 設計津波により当該施設の安全機能が損われた場合の環境への影響評価(4. リスクに応じた対策も考慮した評価)	3. 期待する安全機能及び設備	4. リスクに応じた対策		5. 潜在リスク、対策の効果、緊急性等を踏まえた対策の優先度	
			性状・貯蔵/保管状況等		インベントリ			建家の耐震分類	構造	耐震性	耐津波性				環境への影響が大きい場合	環境への影響が大きい場合		
19	ウラン脱硝施設 (DN)	ウランの脱硝						B類	地下1階、地上3階（一部塔屋） RC造									
20	低放射性濃縮廃液貯蔵施設 (LWSF)	低放射性的の廃液などの貯蔵	低放射性濃縮廃液	廃液（貯槽・ライニング槽）BF	約1,055 m ³	～10 ¹⁴ Bq	C-14 FP (I-129、Cs-137等)	B類	地下2階、地上2階 RC造									
			リン酸廃液	廃液（貯槽）BF	約17 m ³	～10 ¹² Bq	FP (Cs-137等)											
21	廃溶媒処理技術開発施設 (ST)	廃溶媒、廃希釈剤の処理	廃溶媒	廃液（貯槽）BF	約6 m ³	～10 ¹⁰ Bq	FP (Cs-137等)	B類	地下2階、地上3階 RC造									
22	低放射性廃棄物処理技術開発施設 (LWTF)低放射性廃棄物処理技術開発棟	低放射性的の液体及び国体廃棄物の処理	現状は放射性物質の取扱いなし。	—	—	—	—	B類	地下2階、地上5階 RC造									
23	ウラン貯蔵所 (UO3)	ウラン製品の貯蔵						C類	平屋 RC造（屋根部はS造）									
24	除染場 (DS)	汚染機器類の除染	放射性廃棄物等の貯蔵はない。	—	—	—	—	C類	地上2階 RC造									
25	焼却施設 (IF)	低放射性的の可燃性国体廃棄物などの焼却処理	低放射性国体廃棄物（可燃）	カートンボックス、袋 BF1～3F	約2,500kg	～10 ⁹ Bq	FP (Cs-137等)	B類	地下1階、地上5階 RC造									
			焼却灰	ドラム缶 1F	約320kg	～10 ¹⁰ Bq												
			希釈剤（回収ドデカン）	貯槽内 BF1	約200L	～10 ⁵ Bq												
			廃活性炭	貯槽内 3F	約150kg	～10 ⁷ Bq												

安全に関する情報リスト

施設の基本情報										何を守るのか（津波シナリオ、影響評価、対策等）									
No.	施設	A 施設の使用目的	B 主なインベントリ等					C 建家の耐震/耐基準津波評価結果（どこまで何が耐えられるのか）				1. 設計津波が来たら何が起きるか ✓ 建家内浸水の可能性 ✓ 浸水範囲	2. 設計津波により当該施設の安全機能が損われた場合の環境への影響評価(4. リスクに応じた対策も考慮した評価)	3. 期待する安全機能及び設備	4. リスクに応じた対策		5. 潜在リスク、対策の効果、緊急性等を踏まえた対策の優先度		
			性状・貯蔵/保管状況等		インベントリ			建家の耐震分類	構造	耐震性	耐津波性				環境への影響が大きい場合	環境への影響が大きい場合			
26	第二低放射性固体廃棄物貯蔵場 (2LASWS)	低放射性の固体廃棄物の貯蔵	雑固体廃棄物	ドラム缶 (4本/パレット 収納3段積) コンテナ (3段積) BF1~2F	約4,025本	(表面線量率: $\leq 1.0 \mu\text{Sv/h}$)	FP (Cs-137等) Pu U	C類	地下1階、地上2階 RC造 (一部S造)										
27	第二ウラン貯蔵所 (2UO3)	ウラン製品の貯蔵						C類	平屋 (一部2階) RC造 (屋根部はS造)										
28	第一低放射性固体廃棄物貯蔵場 (1LASWS)	低放射性の固体廃棄物の貯蔵	雑固体廃棄物	ドラム缶 (4本/パレット 収納3段積) コンテナ (3段積) BF1~3F	約33,299本	$\sim 10^{13}$ Bq (設計時の推定放射エネルギーから算出)	FP (Cs-137等) Pu U	C類	地下1階、地上5階 SRC造										
29	第三ウラン貯蔵所 (3UO3)	ウラン製品の貯蔵						C類	平屋 (一部2階) SRC造 (屋根部はS造)										
30	リサイクル機器試験施設 (RETF)	—	放射性物質の取扱いなし。	—	—	—	—	A類	地下2階、地上6階 SRC造										
31	排水モニタ室	放出廃液の放射能測定	放出廃液	—	—	—	—	C類	平屋 (一部地下1階) RC造										
32	主排気筒	分離精製工場などからの廃気を排出						A類	RC造										
33	第一付属排気筒	アスファルト固化処理施設などからの廃気を排出						A類	RC造										
34	第二付属排気筒	ガラス固化技術開発施設などからの廃気を排出						A類	基礎部RC造, 筒身部鋼製										
II. 電源等のユーティリティの供給設備等																			
35	資材庫	浄水の供給						C類	地下1階、地上2階 SRC造 (一部RC造)										

安全に関する情報リスト

施設の基本情報						何を守るのか（津波シナリオ、影響評価、対策等）									
No.	施設	A 施設の使用目的	B 主なインベントリ等		C 建家の耐震/耐基準津波評価結果（どこまで何が耐えられるのか）				1. 設計津波が来たら何が起きるか ✓ 建家内浸水の可能性 ✓ 浸水範囲	2. 設計津波により当該施設の安全機能が損われた場合の環境への影響評価(4. リスクに応じた対策も考慮した評価)	3. 期待する安全機能及び設備	4. リスクに応じた対策		5. 潜在リスク、対策の効果、緊急性等を踏まえた対策の優先度	
			性状・貯蔵/保管状況等	インベントリ	建家の耐震分類	構造	耐震性	耐津波性				環境への影響が大きい場合	環境への影響が大きい場合		
36	ユーティリティ施設 (UC)	冷却水・圧縮空気の供給 分離精製工場等への給電			A類	地下ピット、地上5階 RC造									
37	中央運転管理室	蒸気の供給			—	S造									
38	油脂庫														
39	車庫														
40	炭酸ガスボンベ貯蔵庫														
41	中間開閉所	プルトニウム転換技術開発施設等への給電			B類	RC造									
42	第二中間開閉所	高放射性廃液貯蔵場、ガラス固化技術開発施設等への給電			B類	地上2階（一部地上3階） RC造									
43	ガラス固化技術開発施設 (TVF) ガラス固化技術管理棟	ガラス固化技術開発施設への非常用電力の給電			B類	地上4階 RC造									
44	低放射性廃棄物処理技術開発施設 (LWTF) 発電機棟	低放射性廃棄物処理技術開発施設への給電			—	地上2階 RC造									
45	海中放出設備	液体廃棄物の放出			B類	—									
46	環水タンク														
47	薬品貯蔵庫														
48	特別高圧変電所														

安全に関する情報リスト

施設の基本情報							何を守るのか（津波シナリオ、影響評価、対策等）							
No.	施設	A 施設の使用目的	B 主なインベントリ等		C 建家の耐震/耐基準津波評価結果（どこまで何が耐えられるのか）				1. 設計津波が来たら何が起きるか ✓ 建家内浸水の可能性 ✓ 浸水範囲	2. 設計津波により当該施設の安全機能が損われた場合の環境への影響評価(4. リスクに応じた対策も考慮した評価)	3. 期待する安全機能及び設備	4. リスクに応じた対策		5. 潜在リスク、対策の効果、緊急性等を踏まえた対策の優先度
			性状・貯蔵/保管状況等	インベントリ	建家の耐震分類	構造	耐震性	耐津波性				環境への影響が大きい場合	環境への影響が大きい場合	
49	モニタリングポスト													
50	モニタリングステーション													
III. 事故対処に使用する施設														
51	再処理廃止措置技術開発センター 技術管理棟（現場指揮所）													
52	防災管理棟													
53	地層処分基盤研究施設（ENTRY）													
54	安全管理棟													
IV. 事故対処設備の保管場所、設置場所、アクセスルート														
55	移動式発電機（1000kVA）1号機													
56	移動式発電機（1000kVA）2号機													
	<以下略>													